

# わおん 通信

2023  
夏号  
vol.49

## 特集 気候変動と豪雨災害



### CONTENTS

P2 - P3

伊都・橋本地域協議会が新たなスタート  
防災を意識することの大切さ  
環境イベントで「防災」を深く考える機会に  
太陽の下でまんざい&クリーン活動

P3 推進員ノブくんの  
ああしたら、こうなった⑥

P4 - P5

気候変動と豪雨災害

P6 県情報

P7 防災対策は? 「気候変動による災害編」  
大雨による災害から、あなたやご家族の大切な命を守る!  
なるほど ザ・ワード

P8 INFORMATION



## 伊都・橋本地域協議会が 新たなスタート

2023年5月13日(土)  
伊都・橋本地球温暖化対策協議会定時総会(第15回)  
橋本市教育文化会館

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]

第15回目となる伊都・橋本地球温暖化対策協議会定時総会が、顧問(町長、市・

町協議会議員)、会員15名の参加を得て開催されました。昨年度はコロナ禍において、啓発活動を行うべき自治体主催のイベントが縮小される中、協議会主催の「こどもエコチャレンジ教室」、「原子力廃棄物地層処分研究施設見学」、「オーガニック料理教室」等の事業や県知事からの「わかやま環境賞」受賞の報告を行いました。今年度は、SDGsでも大きな課題となってきた「食品ロス」への啓発を行うため、市民向けに「もったいないキッチン」の上映会を開催することが事業計画として承認されました。その後、実際に映画鑑賞も行いました。映画の内容は「食べ残し」「昆虫食」「賞味期限」様々な課題に対して意見提起がなされます。今秋にかつらぎ町でイベント開催を予定し、この映画の上映会＋「リアルもったいないキッチン」料理教室も計画しています。日本では年間523万トンの食品ロスが発生、毎日一人お茶碗一杯を捨てている計算となり、廃棄するためには、運搬や焼却に大量の二酸化炭素を放出していることとなります。こ

うした現状からも伊都・橋本地区から新たな課題にチャレンジしていきます。(黒井)

## 防災を意識することの 大切さ

2023年5月20日(土)  
紀の川市地球温暖化対策協議会総会  
打田生涯学習センター

[紀の川市地球温暖化対策協議会]

今年も紀の川市地球温暖化対策協議会の総会が開催されました。代表の中川皓次さんのあいさつに続いて2022年度の取組についての報告がありました。毎年恒例の環境祭への出展や六ヶ所村の見学、おもしろ環境まつりへの出展などは行えましたが、市民まつり、産業まつり、こども環境学習発表会などはコロナの影響で中止となりました。続いて今年度の予定についての説明があり、地域イベントや自主取組などの復活が予定されていて、推進員活動がこれまでどおり



行えることが表明されました。総会に続いて、「生前整理」について吉田圭美さんからの基調講演がありました。親のため自分のためというサブタイトルのキーワードにあるように、身の回りのいろいろなものを整理しておくことで防災や気候変動の点からも有効であることが伝えられました。気候変動対策の重要性がますます高まる中、協議会の積極的な活動がさらに求められます。

## 環境イベントで「防災」を 深く考える機会に

2023年6月11日(日)  
粉河環境祭2023  
紀の川市

[NPO法人紀州粉河まちづくり塾]

毎年恒例となっている地域環境イベントが今年も開催されました。2008年にスタートした本イベントは今年で14回目となります。屋内・屋外の5つのブースでは、環境啓発に関するクイズやアンケートに回答して、スタンプを貰うスタンプリー等が行われ、楽しみながら環境に関する知識を習得する機会となりました。今年、ゴスペル亭パウロさんをお招きし、環境・防災に関するお話を伺う機会に恵まれました。2023年6月2日からの線状降水帯発生による大雨災害の直後で、海南市をはじめ県内各地でも大きな被害を受けた所にたくさんのボランティアが入っている時期で



もありました。パウロさんは「被災地で出たごみは『災害廃棄物』と呼ばれていますが、廃棄物ではなく『被災財産』と呼ぶことで全く違って見えてくるのではないのでしょうか」と語りました。それまで住んでいた家や発見されたアルバム、写真、位牌などは、その方にとって大切なものばかり。多くのボランティア活動への参加経験から発せられた素晴らしいお話でした。気候変動によって異常気象が発生して起きる災害は避けられないことかもしれないかもしれません。普段から防災・減災にも取り組む必要性を強く感じた一日でした。(詳しい特集は4・5ページ)

## 太陽の下でまんざい & クリーン活動

2023年7月2日(日)  
うみわかまもるプロジェクト  
浜の宮海水浴場

[和歌山環境保全公社]

毎年さまざまな企画で活動を行っている「うみわかまもるプロジェクト」の活動が行われました。晴れ渡った青空のもと、楽しみながらクリーン活動を行おうと総勢120名が集まりました。今回はSDGsゴールズによるビーチクリーン漫才からスタート。これまでにSDGsの17の目標をテーマに次々と新作を打ち出していて、今回は2番の「飢餓をゼロに」を披露しました。お次は、和歌山市内の小学生たちでメンバー構成されているエコエコクラブによる発表がありました。ビーチクリーンのうたという曲に合わせて歌い、小学校の先生たちとのミニコンサートやメンバー全員のダンスで海をきれいにしようという



というメッセージが会場に届けられました。そして、いよいよクリーン活動を開始し、参加者はおみ袋やトングを持って一斉にビーチに繰り出します。約1時間かけて集まったごみは家庭用のごみ袋で5袋ほどになりました。先日の大雨によって発生した大きな流木やがれきなどは開始以前に回収されていたのですが、それでも影響を感じるごみが多く集まりました。過去最多の参加者となったうみわかまもるプロジェクト。今年度の取り組みは、まだまだ続きます。

推進員  
17くんの

## ああしたら、こうなった

### ヒトと農

今回は私が農家になって日々の関わりを通じて変化しつつある気持ちについてお話します。今の社会は効率化や合理性を求めるあまり無理をすることがあります。例えば「早く結果を出さなければ」と他人を責め立てたり長時間がんばって働いたりしがちです。一方、いくら畑の作物に怒鳴ったところで、人間の都合に合わせて収量が増えることはなく一日分の成長しか得ることはできません。太陽光線も雨も風も養分も、得られる量はほぼ決まっています。そのため人は自分たちの都合で何千年もかけて家畜や農作物の生育や栽培技術を高め、多くの結果を求めてきました。こうして人間活動で使われたものは自然の力で補われますが、そのためには一定の時間が必要なので与えられているものの中で上手にやり

くりして生きていくしかありません。より多くの結果を求め続けるとCO<sub>2</sub>排出量が吸収量を上回って濃度が上がっていきます。自然が吸収しきれないものは大気に滞留します。畑の中で、私は自然と人間の関係について深く考えるようになりました。慌ただしい社会の中で、それまで積み重ねてきた文化が蔑ろにされてしまっているように思いますが、命をつなぐ食のシステムは何万年もの間、人類が受け継いできたものを継承して毎日食べられているわけです。たとえ畑に関わってなくても食事の時に、このことを少し考えてみると、食や農業の見え方が変わるように思います。私は、葉が大きく開き、茎が伸び、そして実をつける時にいつも考えることです。

# 特集 気候変動と豪雨災害

気象状況が刻々と変化しています。和歌山県でも異常気象を身近に感じる機会が増えてきました。こうした中、気象の急激な変化がどのようにして起きるのか、また命を守るためにどのような知識と心構えが必要なのかについて特集します。

## そもそも災害とは

内閣府の「災害対策基本法」第二条によると、災害とは「暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう。」とされています。文部科学省と気象庁では2020年に「日本の気候変動2020—大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書—」を公表していますが、さらに2023年1月に「1980年頃と比較して大雨の発生頻度が2倍に増加している」「大雨の頻度と強度の増大には、地球温暖化が影響している可能性がある」などが追記されました。



左：「平成30年7月豪雨」による被害状況（岡山県倉敷市真備町）資料）国土交通省

## 気象災害の現状

Niftyが毎年行っている様々なアンケートのうち「2019年を【漢字1文字】で表すなら」というランキングでは、1位が「災」/2位「令」/3位「雨」/4位「水」/5位「嵐」となりました。日本国内での気象災害を振り返ると、平成30年に起きた岡山県倉敷市の豪雨や令和元年の長野県長野市での台風による水害で多くの被害が及んだ年となりました。そして、和歌山県では令和5年6月2日から3日にかけて北部地域で線状降水帯が発生し、海南市を流れる河川が氾濫し、多くの人々に影響を与えたことは記憶に新しいところです。



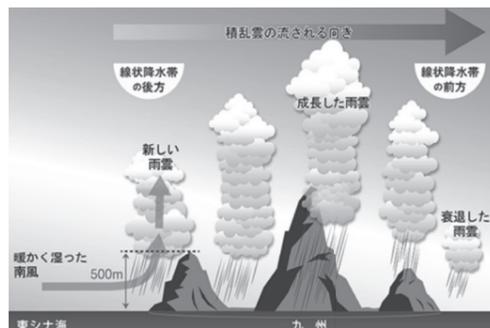
右：「令和元年東日本台風」による被害状況（長野県長野市）

## 集中豪雨のメカニズム

このような豪雨災害は、どのようにして起きるのでしょうか。雲は、たくさん水蒸気を含んだ暖かい空気が気流に乗って上昇することによって発生します。その雲が周囲の空気を吸い込みながらさらに上昇し、やがて大きな積乱雲になります。上空で冷やされた積乱雲の水蒸気は氷となり大量の氷の粒が地上に向けて落下し、激しい雨となります。最近ニュースなどで聞かれるようになった「ゲリラ豪雨」は正式な予報用語ではありませんが、集中豪雨とほぼ同義とされ、局地的に短時間で降る予測不能な激しい雨を連想させる言葉として認識されています。ちなみに、大都市の構造が集中豪雨やゲリラ豪雨を発生させる一因とも言われています。例えば、舗装された道からの反射やエアコンの室外機から放出される熱が上昇気流となって積乱雲を発生させるケースがあります。

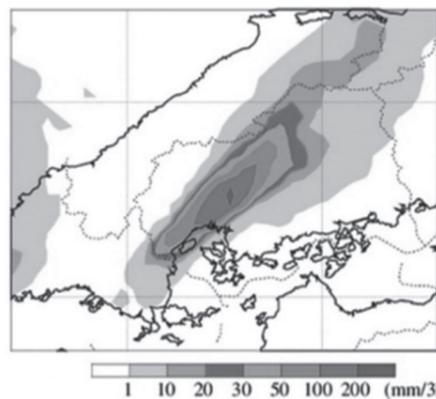
## 線状降水帯って？

気象庁のHPで「次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をもたなう雨域」と書かれています。この積乱雲群は「バックビルディング（後方形成）」と呼ばれ、発生した積乱雲の後から、どんどん新たな積乱雲が発生します。



出典：国立研究開発法人 海洋研究開発機構線状降水帯の停滞が豪雨災害を引き起こす「バックビルディング（後方形成）」の模式図

降水量を表すグラフを見ると帯状に伸びた降水エリアの状況がよく分かります。



出典：気象庁「顕著な大雨に関する情報」の線状降水帯の例より

線状降水帯を発表する基準としては、以下の3つの客観的条件を満たす雨域となります

- ① 3時間積算降水量が80mm以上の分布域が線状（長軸対短軸の比が2以上）
- ② その面積が500平方キロメートル以上
- ③ 上記①の領域内の3時間積算降水量の最大値が100mm以上

## 予測と情報取得

現在、線状降水帯についての観測・予報システムの研究が進んでいます。内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）において、国立研究開発法人防災科学技術研究所、一般財団法人日本気象協会、および気象庁気象研究所は「顕著な大雨をもたらす線状降水帯の自動検出技術」を開発しました。この自動検出技術は、2016年6月から気象庁で採用、運用されていて以下の特徴を持っています。

- ① 解析雨量や気象庁の危険度分布を活用することで、災害発生の危険度が急激に高まっている地域における線状降水帯を検出することが可能。
- ② 警戒レベル4相当（自治体が避難指示を発令する目安）以上の状況があることを把握することが可能

こうしたシステムにより、より迅速な情報を受け取ることができるようになりました。

◆気象庁ホームページ  
⇒「気象警報・注意報」で検索  
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

◆わかやま防災ナビ  
(スマートフォン用アプリ)  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/bousai/d00155183.html>

## 「備え」と「心がまえ」

ここまでで分かったことは、私達の暮らしは、さまざまな災害対策が必要不可欠であり備えと心がまえが求められます。和歌山県防災企画課のページからダウンロードできる「わかやま防災ナビ」アプリでは、防災対策のためのヒントや避難カードなど、必要な情報やツールが揃っていますので、おすすめです。



和歌山防災ナビ・アプリ画面

## いざ！助け合い

災害に見舞われた人々に対して、何ができるのでしょうか。今回は、県センターの職員が復旧ボランティアに参加したときの様子をご紹介します。

6月2日に降った大雨の影響で、和歌山県北部の地域で大きな被害がありました。海南市では6月4日に社会福祉協議会の災害ボランティアセンターが立ち上がり、一般ボランティアの募集が始まりました。活動内容は家具の運び出しや床下の泥出しなどで、私は住宅の周囲と庭の泥出しを手伝いました。天候によっては活動ができない日もあるとのことでしたが、この日は快晴で気温も高く、堆積した泥をスコップで数回かき出すと汗が滝のように流れました。水分を含んだ泥は重く、20分ほど作業しては休憩（水分補給）をしました。事前のオリエンテーションでのアドバイス通りに、作業ごとに依頼者に作業内容の確認をしました。しかし依頼者から「どうしたらいいかわかん…」と言われる場面もあり、連日の復旧作業での疲れが溜まっている様子でした。それでも最後には笑顔で「ありがとう、助かったよ。」と言っていたので、少しほっとしました。

今回のボランティア活動で、発災からの経過時間に応じて必要とされる活動や人数が変化することを実感しました。発災から1ヶ月以上が経ち応急対応のニーズは減っているので、一般ボランティアの募集日数も大幅に減っています。それでもまだ家具の運び戻しなどボランティアの力が必要だと思います。私は推進員として、これまで防災などの知識を学んできましたが、実際に現場を訪れることで、被災された方の気持ちを含め、改めて災害について考えるようになりました。

災害ボランティアについては、社会福祉協議会が募集するケースが多くあるようです。活動参加を希望する場合、その情報を取得し、登録することからスタートします。ボランティア保険への加入や、状況に応じた人数の調整などもあるようです。困ったときに助け合えるよう、自分にできることを考えてみる機会としてみてはいかがでしょうか。

## 出典元情報

- ◆内閣府「災害対策基本法」  
<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=336AC000000223>
- ◆気象庁 地球温暖化情報ポータルサイト  
[https://www.data.jma.go.jp/cpinfo/index\\_temp.html](https://www.data.jma.go.jp/cpinfo/index_temp.html)
- ◆海と地域の情報サイト JAMSTEC BASE  
<https://www.jamstec.go.jp/jpr/topics/column-20200706/>
- ◆防災科研  
<https://www.bosai.go.jp/info/press/2021/20210611.html>
- ◆和歌山県社会福祉協議会  
<https://www.wakayamakenshakyou.or.jp/>



出典：和歌山県海南市海南駅周辺の冠水部分（中央の塗りつぶし部分）を表す地図（防災科研サイト）

# 第22回わかやま環境賞

## ～令和5年度の受賞者が決まりました～

和歌山県では、平成14年度に「わかやま環境賞」を創設し、毎年、県内において優れた環境保全活動を行う個人または団体を表彰しています。

表彰を通じて、受賞者の活動事例を広く紹介することにより、県民の皆さんの環境保全に関する意識向上と環境保全に関する行動の促進を図ることを目的としています。

今回大賞を受賞された「株式会社大瀧商店」は、産業廃棄物の回収や処理をするとともに、コークスの使用を減らすため、廃プラスチックを利用した製鋼副資材の開発や製造を行う工場として活躍されています。



### 受賞者（順不同）

#### (1) わかやま環境大賞

受賞者	活動の名称と内容
株式会社大瀧商店 (紀の川市)	<b>廃棄物を利用した製鋼副資材の開発・製造</b> コークスの使用を減らすため、廃棄物を利用した製鋼副資材を開発し、環境保全に取り組んでいる。

#### (2) わかやま環境賞

受賞者	活動の名称と内容
ぶどう山椒の発祥地を 未来へつなぐプロジェクト (有田川町)	<b>廃棄物活用でぶどう山椒の発祥地を持続可能な未来へ</b> ぶどう山椒の未使用資源を使った商品開発を行い、廃棄物の減量に努めている。
近畿大学附属和歌山中学校 (和歌山市)	<b>ふるさとチャレンジ～ Smile project ～</b> 海洋プラスチックごみ調査や企業と連携したりサイクル製品を開発する等、環境保全の啓発に取り組んでいる。
畠島海岸生物群集 一世紀間調査グループ (白浜町)	<b>畠島海岸生物群集一世紀間調査</b> 50年にわたり、海洋生物群集モニタリング調査を続け、生物の保全活動に取り組んでいる。
株式会社ソマノベース (田辺市)	<b>土砂災害による人的被害ゼロへ。</b> <b>若者や業界外からの視点を活かした、森林関係人口の創出事業。</b> 土砂災害による人的被害をなくすため、誰もが森林保全に参加できる活動を実施している。

#### (3) 特別賞

受賞者	活動の名称と内容
北山村立北山小学校3年生 (北山村)	<b>アサギマダラプロジェクト</b> アサギマダラの渡りを助けるために調べ学習や観察をし、生物の保全活動を行っている。

# 防災対策は？「気候変動による災害編」

## 大雨による災害から、あなたやご家族の大切な命を守る！

去る6月2日に台風2号の影響で和歌山県に線状降水帯が発生し、各地で河川の氾濫や浸水、土砂災害が発生し、大きな被害をもたらしました。防災士の立場で、風水害に対してどのような備えが必要かお話しします。

- ①家の周りを片付けたり、雨どいや排水溝にごみ等が溜まっていないか確認する。
- ②停電に備え、懐中電灯や携帯電話が使えるよう、乾電池やモバイルバッテリーの準備をする。
- ③断水に備え、飲料水やトイレ等の生活用水を準備する。
- ④備蓄品や非常持ち出し袋を確認する。
- ⑤ハザードマップの確認や自治体等から出る気象情報(\*1)に注意する。
- ⑥浸水に備え、電化製品や貴重品を2階等に移動させる。
- ⑦浸水や土砂流入に備え、土のうや水のう(\*2)を準備する。等

\*1. 気象庁のホームページで公開されている「キキクル」は、大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを、地図上で視覚的に知ることができる情報です。大雨による土砂災害の危険度は「土砂キキクル」、短時間の強雨による浸水害の危険度は「浸水キキクル」、河川の洪水災害の危険度は「洪水キキクル」で、確認することができます。是非、活用してください。

\*2. 「水(すい)のう」とは

- ①玄関先において家中への浸水を防止
  - ②トイレの便器に入れて逆流を防止
  - ③洗濯機の排水口からの逆流を防止
  - ④風呂場の排水口からの逆流を防止
- 等に利用できます。

作り方は簡単です。①45リットルほどのポリ袋を2枚用意します。②ポリ袋を2重にします。③水を3分の1から半分ぐらいまで入れます。④空気を抜きながら口をきつくしばって完成です。

(推進員/防災士 黒井 成男)



## なるほど サ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 40

\*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

### 「GX [グリーン・トランスフォーメーション] って」

最近、ニュースなどで耳にするようになったGX ……今回は、中でも話題のGX推進法について解説します。

GXとは「化石エネルギー中心の産業構造、社会構造をグリーンエネルギー中心へと転換する」ことを意味する施策です。日本政府は、GXを実現するため、(1)2050年にカーボンニュートラル、2030年までに温室効果ガス排出量を2013年比で46%削減、さらに50%の高みを目指した日本の削減目標を実現すること、(2)エネルギーを安定的かつ安価に供給すること、(3)日本の産業競争力を強化し経済成長につなげることを掲げ、令和5年5月にGX推進法(脱炭素成長型経済構造への円滑な移行の推進に関する法律)とGX脱炭素電源法(脱炭素社会の実現に向けた電気供給体制の確立を図るための電気事業法等の一部を改正する法律)を成立させました。

GX推進法では、炭素に価格をつけ、排出者の行動を変容させる施策「カーボンプライシング」を盛り込みました。温室効果ガスの排出に対する金銭の負担や売買排出量取引制度、さらに炭素税をあげました。具体的には、企業からの温室効果ガス排出量に上限を設定し、保有する排出枠を超えて排出した場合は罰金が課せられ、超えなければ上限までの残分を転売することができます。超えそうな場合、他社の転売分を購入して「みなし排出量」を下げることもできます。炭素税では温室効果ガス排出量1トン当たりの税率を定め、化石燃料の輸入や消費などは課税されること

になります。つまり、カーボンニュートラルの目標達成のために企業や個人の負担を法律で定めたという時代になったのです。

企業は、今では環境企業に変容しなければ自社の株価を下げってしまう厳しい国際市場の中でビジネス展開しています。日本企業の国際競争力をより高めるためには、GXを中心とした脱炭素化を急いで進めることが期待されています。また、この潮流は、いずれ地域の中小企業や個人の財布に大きく影響する話でもあり、特に間接影響が大きいと心配されます。

GXでは膨大なお金が動きます。多くは市場原理や民間主導での展開です。政府は、これを後押しする形で「取組企業への投資という形で資金を集める際にかかるコスト」を行政機関向け、金融機関向けとした制度支援も盛り込みました。規模的には国内投資だけで150兆円が見込まれ、国際規模では数千兆円に及ぶという話すらあります。この多額の投資の一部を獲得して新しい環境ビジネスを展開する野心的な企業も出てきています。誰かがコストを負担するのですから、その一方で儲ける人も同時に出てくるわけですが、結果、次世代環境ビジネスを活性化させようというホットな話題であふれるようになりました。単に払うだけの人になるか、誰かが支払ったお金を受け取って儲ける方になるか、多額の投資だとはいえ、あつという間に投資先は決まってしまうかも知れません。このように、今、持続可能な社会づくりに対して人類全体が試されているのです。

イベント情報

第20期和歌山県地球温暖化防止活動推進員養成講座



第1回・田辺市会場	7月15日(土)	田辺市スポーツパーク
第2回・上富田町会場	7月30日(日)	田辺市ビッグU
第3回・有田市会場	9月開催(予定)	
第4回・かつらぎ町会場	9月開催(予定)	
第5回・岩出市会場	10月開催(予定)	
第6回・和歌山市会場	10月開催(予定)	

詳細が決まり次第  
県センターホームページにて公開します

うみわかまもる  
プロジェクト

主催：一般財団法人和歌山環境保全公社



食べる と 暮らす  
アイデアをシェアするコミュニティ  
「和歌山食と暮らし  
プロジェクト」



◆一あたらしい森づくり塾ー

新しい森林浴「森で健康になろう」

2023年9月30日(土)と11月4日(土)

新しい森づくり「楽しい針広混交林へ」

11月18日(土)、19日(日)の2日間

場所：田辺市内

内容：講座・体験

お申込み/お問い合わせ

NPO法人つれもてネット南紀熊野

担当：千品(ちな) 090-20683-3340

info@kumano-forest-style.com

講座詳細及び参加お申し込み方法は上記宛先まで

●詳しくは<https://kumano-forest-style.com/news20230808/>

◆SDGs はしもと環境フェア2023

2023年10月1日(日) 10:00~15:00

場所：橋本市教育文化会館ほか

出展(予定)：伊都・橋本地球温暖化対策協議会

内容：「地球温暖化防止啓発活動」

詳細決まり次第、県センター WEBで告知します

Zoom×オンライン授業「電気エネルギーの選択」

2023年9月23日(土) 13:00~15:00

【対象】小学3年生~一般(インターネット環境のある方)

※パソコン・スマホのどちらでも参加可能です。

オンライン会議アプリ「Zoom」を使用します。

【定員】先着100名

【参加費】無料(通信費はご負担ください)

【応募方法】

ホームページ内の応募フォームよりお申し込みください。

申込の方には後日、メールにて詳細をご連絡します。

【応募締切】2023年9月16日(土)

お問い合わせ

川口ダム自然エネルギーミュージアム

TEL 0884-62-2209 FAX 0884-62-2209

<https://kre-museum.jp/>



【全国】第27回ちゅうでんリサイクル工作コンクール

作品の写真を送ってエントリー！

いらなくなった生活用品を利用した工作作品のコンテスト

テーマ：

いらなくなった生活用品を利用した工作

対象：全国の小学生

作品サイズ：

縦50cm×横50cm×高さ50cmまで

締め切り：

2023年9月15日(金) 必着



夏休みの宿題応援！「いきものログ」の『種名調べ支援』好評実施中！

生きものの名前がわからないときは「いきものログ」の『種名調べ支援』！～期間限定～

2023年4月28日(金)～2023年10月31日(火)

『種名調べ支援』とは？ 生きものの名前を調べるお手伝いをする無料サービスです。

あなたの活動をサポート わかやま推進員サイト   イベント情報も随時更新

県センター通信

ここ数年、私たち県センターの役割が大きく更新されています。企業の脱炭素化、地域コミュニティ、気候変動を中心としたSDGs教育など、持続可能な社会に向けたあらゆる分野をさらに前に進めていく活動支援が求められています。それぞれの課題は、より明確かつ具体的な取り組みを求められています。今回特集した気候変動に伴う災害をはじめ、実際に身体を使ったり、話し合いや情報共有による対策が求められたりと、推進員活動もさらなる活動が求められています。家庭での地球温暖化対策だけでなく、地域や他の人たちと一緒に何ができるかを考えて活動に取り入れていくことがますます重要になってきています。引き続き県センターの活動への参加、協力をお願いします。

